

のぶただ 織田信忠

織田信忠は、弘治3年（1557）信長の長子として生まれました。天正3年（1575年）信長から家督を譲られ、松永久秀の追討、播磨攻め、大坂本願寺一揆の討伐、荒木村重の有岡城攻略など各地を転戦します。天正10年（1582）2月12日信忠は、甲州征伐の織田軍総大将となり岐阜を出発、徳川家康・北条氏政と呼応して武田領に攻め込み、たちまち高遠城など南信濃（長野県）の諸城を攻め落とします。信忠軍の凄まじい進撃を前に武田勝頼は、3月2日新府城（山梨県）を放棄し逃亡、同月11日天目山で自害し武田氏は滅亡しました。

信忠の軍監だった滝川一益は、信長から「関東八州之御警固」を命じられ、同月19日1万余騎の兵とともに箕輪城（高崎市）に入り、後に厩橋城（前橋市）に移りました。一益は上野一国と佐久・小県2郡を与えられ、上野国衆も出仕し織田の上野支配を開始します。しかし6月2日京都本能寺で信長が明智光秀に討たれ、信忠も二条御所で自刃しました（26歳）。信長父子の横死を知った上杉景勝・北条氏政・徳川家康は、織田領国になったばかりの旧武田領の甲斐・信濃・上野・駿河の篡奪を始めます（天正壬午の乱）。一益は真田昌幸に沼田城を返還し北条氏に備えますが、北条氏直は北条氏邦を先鋒に上野に侵攻、同月19日神流川の戦いで滝川軍を破り、一益は本国伊勢（三重県）へ逃亡し織田の上野支配は短期間で終わります。

のぶかつ 織田信雄

信長の次子に生まれた**織田信雄**（1558～1630 年）は、波乱の人生を送りました。伊勢国司**北畠具房**^{ともふさ}の養子となりますが、北畠一族を粛清し、伊賀攻めなどで活躍します。天正 10 年（1582）の**清洲会議**では、信忠の遺児秀信の後見役として清洲城と尾張国を与えられ伊賀・南伊勢と合わせ約 100 万石を領しました。**異母弟**^{のぶたか}**信孝**が柴田勝家と結び挙兵すると、信雄は羽柴（豊臣）秀吉に与し信孝を殺害しました。

その後信雄は、**徳川家康**と結び**小牧・長久手の戦い**^{こまきながくて}（愛知県）で秀吉と戦うものの、信雄だけ秀吉に調略され講和に応じ、服属しました。天正 18 年（1590）の**小田原征伐**では秀吉軍で活躍したにも関わらず、戦後の転封命令を拒んだため秀吉の怒りに触れ、所領没収のうえ下野国烏山^{からすやま}（栃木県）に配流されました。その後出家し**常真**^{じょうしん}と号した信雄は、ゆるされて**秀吉の御伽衆**^{おとぎしゅう}に加えられ、息子の秀勝が 5 万石を与えられます。慶長 5 年（1600）関ヶ原の戦いでは父子で西軍に組し改易^{かいえき}されました。大坂の陣では豊臣方から招かれたが応ぜず、ひそかに家康に通じ大坂を退去したため、戦後の元和元年（1615）7 月家康から大和国宇陀郡で 3 万石、上野国甘楽・多胡・碓氷 3 郡内で 2 万石、合計 5 万石を与えられました（**上野国小幡藩**）。寛永 7 年（1630）京都で没しました（73 歳）。晩年は茶・能などを愛好する数寄者としても知られ、小幡藩邸の庭園**楽山園**^{らくさんえん}の作庭にも関わったとされています。